

Japan Geoscience Union Meeting 2010

(May 23-28 2010 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2009. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



PPS007-11

会場: 301A

時間: 5月26日16:30-16:45

系外惑星の科学

Exploration of Exoplanets

中本 泰史^{1*}, 高橋幸弘², 中島健介³

Taishi Nakamoto^{1*}, Yukihiro Takahashi², Kensuke Nakajima³

¹東京工業大学, ²東北大学, ³九州大学

¹Tokyo Institute of Technology, ²Tohoku University, ³Kyushu University

日本の将来の惑星ミッションを検討する一環として、太陽系外の惑星を観測すること、および、太陽系外惑星の研究と関連した太陽系内天体ミッションについて議論する。

ここ15年の間に太陽系外惑星が400個以上も発見されてきた。近年にはついに、木星のような大きな惑星ではあるが、直接撮像もなされた。系外惑星の観測的研究において次の大きなステップは、地球と同程度の質量の惑星の発見である。さらにその次のステップは、そのような惑星の特性を明らかにし、地球と同じような惑星を発見することである。これらは人間が発する自然な疑問に根ざしている、きわめて素朴な夢でもある。

このような素朴な夢に対して科学的観点からの検討を行い、より具体的な科学的目標を設定できるようにする。

議論では、(1)系外惑星を直接観測するものと、(2)系外惑星を念頭に置き、その研究の進展にも有効な太陽系内天体探査について検討したい。